

# 脂質異常症の診断基準

日本動脈硬化学会の「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版」では、以下のような基準が示されています。

## 脂質異常症診断基準

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120~139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上(空腹時採血*)	高トリグリセライド血症
	175mg/dL以上(随時採血*)	
Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150~169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

\* 基本的に10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。

\*\* スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。

● LDL-CはFriedewald式( $TC - HDL - C - TG / 5$ )で計算する(ただし空腹時採血の場合のみ)。または直接法で求める。

● TGが400mg/dL以上や随時採血の場合はnon-HDL-C(=TC-HDL-C)かLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニングでnon-HDL-Cを用いる時は、高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

● TGの基準値は空腹時採血と随時採血により異なる。

● HDL-Cは単独では薬物介入の対象とはならない。

一般社団法人日本動脈硬化学会 編:動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版, p. 22, 一般社団法人日本動脈硬化学会, 東京, 2022.

## 脂質異常症と診断されたら…

すぐに治療が必要というわけではありませんが、放っておくと動脈硬化につながり、動脈硬化性疾患を引き起こす原因となるため、早期の改善が重要です。



## 女性の脂質異常症

総コレステロール値、LDLコレステロール値は40歳代までは男性の方が高値を示しますが、50歳代以降は女性が上回ります。50歳以降になると急速に女性の肥満度が増加するのは、閉経頃からの高LDLコレステロール血症の増加、また、メタボリックシンドロームの増加が大きく関与すると考えられています。



参考:厚生労働省研究班(東京大学医学部藤井班)監修:女性の健康推進室 ヘルスケアラボ  
女性および高齢者の脂質異常症(2022年7月現在)([https://w-health.jp/old\\_age/dyslipidemia/](https://w-health.jp/old_age/dyslipidemia/))

【監修】医薬情報研究所/株式会社エス・アイ・シー、公園前薬局(東京都)薬剤師 堀 美智子 先生